（郵信省許可）　（本號十面）　明治二十四年九月四日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

第三千百二十五號
明治廿四年九月四日
舊曆辛卯八月二日
金曜日（癸巳）
日出午前五時十六分　日入午後六時四分
月出午前五時四十二分　月入午後六時十九分
滿潮午前六時二十分　干潮午後六時二十四分
（西暦一千八百九十一年）

時事新報の賣捌に付

此程より本社は府下の各新聞社と共に國會、東京朝日の兩社と其賣捌所を區別する事に決したるに此際各地の購讀者に對し種々の口實を設け甚しきは延着など申唱へて新報の購讀者に他新聞を配達するものある由なれば斯る際には御手數乍ら御一報ありたし速に御購讀の便路を開き可申候尤も斯る御通知を紙上に吹聽して屢々し御迷惑相懸け候樣の事は本社の決して爲さゝる所此邊の御懸念無之樣願上候

時事新報配達掛

山地中將の肖像附錄

此程讀者諸君の投票多數に依り第三回の附錄と定りたる山地中將の肖像は例の通り美麗なる石版刷とおし本月中旬の本紙附錄として讀者に配布すべし

時事新報

左の一篇は社友敢果生が北海道漫在中に見聞せる二三を摘錄したるものにして讀者の參考に資すべきものあるに非ざれば爰に掲ゞ

北海雜說　一

拓地殖民

北海道に關する總論は世既に之を筆舌して殆んど餘蘊なきが如し我輩は勉めて其繁を避けて爰に先づ拓地殖民の政策を略評せんに仰も北海道を有望の富源と稱し興論みな此に讃きて著々移殖を企つるに至りたるは特に此三五年以來のみとなれども其本を尋ねば明治政府が開拓使を設け方針政策を決したるが故にして當時の如きは荊棘天を蔽ひ堆雪地を塞ぎ、猛熊人立、怪狐晝鳴、尚に定獸飛禽の國土なりしに此暗慘蕭殺の境を跋渉し土人樵夫の賓導に任せて時に雪片を嚙んで渴を醫し時に枯草を結んで蓐に代へ札幌區を筮さの野に計畫し錢函街道を熊穴の傍に定め苦小牧驛に通じて東海岸に達し鋼路に根室に北見、天鹽の北岸に至るまで開いて以て今日の基をおしたる先達の辛苦は境を踏んで轍た退懷の情に堪へず永世滅す可らざるの偉功と云ふべし不可あけれども扨それより現今に至るまで創業に守成に經營計畫の成行を察すれば期望と實際と齟齬したるもの少あからず無限の辛苦を忍んで莫大の國帑を費消し得る所を以て失ふ所を償はざるは遺憾と云ふべし現に本道の地味の一體に肥沃なるは蓬の丈三四尺以上に達するを見ても明白にして其他野生の桑樹は採て以て蠶を養ふべく廣原の欵冬、蕨、牛蒡、土筆の類は採て以て食ふべし學校四五年間は料を施さずして植物能く繁茂し牛馬家畜の生育も亦宜しく雪中久しけれども越陸地方と大異同なくして具に有望の富源たるに背かざるに然るに到る處皆は僅々落々として未型に屬し神代地の僅に拙業せらるゝものは是れ豈單に着手以來日尚浅きが故のみならんや蓋し種々の事情もあるみとなれば是も元來拓殖民の設計たる永遠に亘るべき大業なるにも拘はらず官邊に濃ある情實因緣の弊、動もすれば其方針を左右したるを第一として運輸の便に乏しき事、濕地なる廣原に堀割の企てなき事、移民の種類は概ね貧士族を誘導して貧農漁民を後にしたる事、屯田兵も亦貧士族の居多なる事及び土地賣拂法の不完全なる事等は必竟原因中の重なるものなるべし敢右情實云々の弊は今度新任長官の最も心を用ふる所なりと云へば既往を咎めずして將來を觀るみとし定め次に運輸の便は當局者も寤寐に忘れざる所なる可けれども成るべく費用を節して成跡を大ならしめんみとを願の外なく又堀割即ち開水の業は是れも當局者が費用の爲めに不如意を感するみと少あからざる由なれども茫々たる大原曠野唯排濕の道なきが爲めに空しく委棄して鋤犂を入るゝみと能はざるは我輩の見るに忍びざる所にして或は政府が一種の約束を設け堀割成功の上は沿岸の地幾千を與ふべし抔として民間の金を募る等の趣向も一法なる可し又或は世の富豪家が大に慈善の事を首唱し極世の窘務を助るとて是等の事業に散財して貧民の移住に便利を與ふる等は富豪家自身の利害の爲めにも顧ふる有効の機轉なるべし次に貧士族の移住は我輩の甚だ感服せざる所にして內地の始末一偏より見れば此種族のみを正に移住せしむべきものゝ如くなれども北海道を以て內地の掃溜となすは具に拓殖の實効を奏せんとするには貧士族の移住は實に好さからざるを覺ゆ本來窮達貧富は大抵自から招く所あり士族にして窮せんか其郷里に於て窮せしめよ殊更に費用を投じて新開地に誘ふとも困窮は依然たる困窮にして利益へ惰風を移すの慨もあれば之を從來の移殖に關する一大弊として我輩は寧ろ水香百姓に左袒せんとする者なり又彼の有名なる土地賣拂法の不完全なる次第は次に之を開陳すべし

雜報

◎目的は日本不釣合の教育　我教育の程度を高尚ならしむるは從來文部省の持論にして現に帝國大學の如きも日本人の腦力に餘る學科を設け而して我大學は目下世界に教育の高尚を以て任ずる獨逸の大學にも劣るとし此高尚なる教育みを實に我文明の先導者たりと唱ふる次第なるが故に其他の中小學に至る迄自然學科を高尚ならしむるは數の免れざる處にて現に一般の子弟をして隨分無用の學問に腦力を費して苦學せしむるを今日の弊勢なり近頃世論類に我教育の不完全なるを主唱するに拘はらず文部省は徹頭徹尾其目的を貫かんと欲する者の如し此頃其當局者は或る人に語て曰く近來文部省は私立學校模範の新を就るが如く論難する者頗多なりと雖も本省が專に尋常中學校と高等中學の連絡を附して多少私立學校を制限する能あらしむる者は全く一般人の學力を高尚ならしむるに在るのみ今日世間に專門の學業を修め世に立つ者にして高等の普通教育を受けざる者さへ多き有樣なるは實に我が教育上の缺點と云ふべきなり今假令へ一般の子弟をして強て尋常中學を經過せしむるの方向を取ればとて之が爲め私立學校を衰退せしむべき謂れなし寧ろ私立專門學校の如き寸一旦高等普通學を經過したる子弟が前後相續て入學し來らんには却て純良の生徒を得て其教育上好結果を見る次第あらん左れば本省は能く迄一般生徒の學問を高尚ならしむるの方針を執り往々は眞の學者が社會萬般の業に就くの望を達せんとするに在りと物語れりと云ふ

◎郡長試驗　東京府に於ては一兩日前郡長試驗を施行せり目下六郡中一名も郡長の欠員はなけれど從來東多摩南豐嶋の兩郡は大抵一人の郡長にして兼官を命ぜしも若し一朝郡制の施行せらるゝ如き事あれば兩郡中一郡は必らず獨立せしめざるべからずゆゑに豫め之れが候補者を試驗の上定め置く爲めありと

◎市村座（つゝさ）　二番目田舍源氏は小團次の出しものなるが前就に也記せし如く先代小團次に當て欽めて新作したるを其後大友が勸めし以來原板さへ投收されし事あり絶て舞臺に顯れざるものとて今度同座へ出勤の俳優は故人の演せし形を故老に疏て聞合せし位なれば書卸ろしも同樣ありと偖小團次の東雲上の卷暗闘の場は見物もだんまり込みて評なし中の卷七年前寶藏に忍び入りし時喜代之助に奪はれし片袖を光氏より渡され偖は是れ驚き二人の惡徒に光氏を殺さしめんと臥戸に跳り入れば早くも光氏は實晉を伴れて影を隱し顯はれ出でしは喜代之助なりしに二度嘆歎されと一節道の事あれば落行く先きは野中の古寺と一寸立廻りと爲り花道まで行き掛けしが跡戻りて面箱衣裳を持ち行く所婦人の態度を擬させ相應に出來したり古寺の場舞ひは本脚のみとゝて番し自刃の上の物語りは少しオレたり亡父と大友の名人が演じたる三度目の東雲、同優には荷が重過ぎたりと評するものもありし八百藏の光氏押し出しも立派にて仕業に批難はあるも全體色氣に乏しく同優に取りては至極迷惑相見えたり女實の實晉稱麗々々女形に乏しき一座の事とて好き役が附きて仕合せなり阿古木の亡靈に惱まされて氣絶し光氏の介抱に人心地着きし折柄蛇女の顯はれ出で胴體への止まさる中より衣裳に目を注け母を知りて抱き止める所抔は好くみおしたれど自刃後は母東妻の物語りと共にオレ込みたり小紫の阿古木の亡靈淋しき藍風あれば幽的は欲り好し藤太郎の屋ひ嫁ふと共に其虎の皮に縁ある雷あらねど一擧一動見物人をして腸の所在を失はしめたり殊に花宮を持て一寸遠成寺の具似は雪いもの歌舞伎座の伴内と遜れくりの二役が見如前から思ひ遣る新藏の古寺の眞念は見物へ御馳走アンナ惡子がある者かの歸は鮮妙〳〵審美藏の仁木喜代之助何をさせても退けを取ぬ重寶役者次に大切廿四孝從來各座にて演ずる者は行く水の流れと人の義作がと柳の淨瑠璃に伴て長上下の勝顯が刀を携へ出で來るが例あるに今度は院本廿四孝の四段目を徹頭徹尾景勝の上使より奮勝遣三の立廻りの時に勝顯が梨地の立廻りの時に勝顯が梨地の立廻りの時に勝顯が梨地